

平成22年度 府立大冠高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

創立当初より掲げている School Motto (スクール モットー)「Find a Way or Make One (見つけよう つくりだそう 明日への道)」のもと、「自らの手で明日への希望や目標を見だし、その希望(夢)や目標に向かって邁進する」生徒を育てる。

具体的には、生徒一人一人の基礎学力や学習意欲の向上、規範意識や相互の人権尊重意識の向上、充実した内容の教育課程の編成、部活動の活性化、地域連携・中高連携・高大連携の充実等、上述のめざす生徒像を実現するための学校力を常に向上させることのできる学校づくりをめざす。

2 本年度の教育目標

2009年度版の School Motto (スクール モットー)「ステップ フォワード 09」の積極的な継続を図り、2010年度版の School Motto (スクール モットー)として、「ステップ フォワード ~ 一人一人が『意欲』をもって ~」を合言葉に、生徒と教職員とがともに、今在る所から一步前へ踏み出し、現状を少しでも前に進めるとい意志と意欲をもって物事に取り組む。具体的には、

(1) 意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。
(2) 授業に臨む際の集中力を高め、自ら進んで学習する態度をより一層確立する。
(3) 地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成22年5月 記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	<p>①授業内容や授業方法について常に点検するとともに、教材研究の質を高め、授業改善に努める。その際、研究授業や教員間相互の授業見学、生徒の意見や感想等の収集・分析等の手法を積極的に取り入れる。</p> <p>②学力に課題のある生徒等を中心に、生徒一人一人の学習状況をより一層的に把握し、生徒に寄り添う気持ちで指導するとともに、生徒の積極的な授業参加を図ることができるよう、「教科担当者会議」の開催回数を検討するなどして、担任・学年と教科担当者との連携をより密なものにする。</p> <p>③ICT機器の授業への活用について研鑽を積み、新しい授業スタイルについて研究する。</p> <p>④高大連携、補習・講習の実施、図書館の有効活用等を含め、生徒の学習意欲や進路意識を高めることのできる企画を検討し実践する。</p> <p>⑤3年間を見通して、進路情報の提供、進路相談、進路説明会、大学・短大・専門学校・職場等の見学、講演や体験活動、模試や模擬面接等を実施するなどして、1年次から系統的・組織的な進路指導を行う。</p> <p>⑥PTA、進路指導を支援するNPO法人や業者、大学・短大・専門学校、企業等との連携を図り、多面的な進路指導ができるように努め、特に3年生については、すべての生徒の進路希望が叶うよう、学校全体で取り組む。</p>	<p>①「授業評価システム」を導入して、11月に授業アンケートを実施し、その結果をもとに各教科で授業改善について議論をした。教員どうしが授業を見合う、校内の公開授業週間を1月に実施し、そこで研究授業も実施した。</p> <p>②学年の「教科担当者会議」を述べ10回開催した。また、個々の生徒のための「教科担当者会議」や「要配慮生徒別ケース会議」を述べ40回開催した。これらの取組みによって、担任・学年と教科担当者との連携がより密なものになり、生徒一人一人の学習状況をより一層的に把握できた。</p> <p>③パワーポイントを用いた研究授業を1回行ったが、ICT機器の授業への活用という点ではまだまだ課題が多い。</p> <p>④高大連携(下の(4)参照)、補習・講習の実施、図書館の有効活用に加え、国際交流の取組みも実施し、多くの生徒に英語の学習の必要性を実感させることができた。</p> <p>⑤⑥従来からのノウハウの蓄積をうまく活用することに加え、PTA、進路指導を支援するNPO法人や業者、大学・短大・専門学校、企業等との連携を図り、系統的で組織的な進路指導を充実させることができた。特に、3年生の就職希望者は、全員が内定を勝ち取る事ができた。</p>	<p>○生徒の授業への努力度と満足度を把握できるように授業評価の内容を工夫し、それぞれの度合いを高める。</p> <p>○習熟度別少人数指導に取り組むとともに、基礎学力の育成を充実させるための方法を研究し工夫する。</p> <p>○言語活動の充実、英語教育の充実、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上、国際理解教育の推進のための取組みを研究し工夫する。</p> <p>○授業において、生徒が発表する場をたくさん設けるよう、授業方法を工夫する。</p> <p>○ICTを活用した授業づくりを含め、校内での研究授業・公開授業を推進する。</p> <p>○高大連携については、下の(4)に記載する。</p>
(2) 生徒指導等	<p>①学校の教育活動全般を通じて、生命の大切さや善悪の区別など、人間としての基本的な道徳性や倫理観、規範意識や人権尊重意識、地域や社会に貢献する気持ち等を身に付けさせ、豊かな心を育み、温かい人間関係を醸成する。</p> <p>②「教育相談委員会」の機能を充実させる、また、新たにできた「相談室」を有効に活用する等、障がいのある生徒や課題を抱える生徒の自立を支援できる体制を確立する。</p> <p>③部活動のさらなる活性化を図るとともに、行事への積極的な取組を奨励し、活気のある学校づくりに努め、元気で意欲のある生徒の育成を図る。</p> <p>④遅刻者数の減少、学年が上がるにつれて遅刻者数が増加することへの歯止め等を目標に、メロディーチャイム、放課後に残しての説諭指導等を有効に活用した組織的な指導を行う。</p> <p>⑤頭髪指導、服装違反者への再登校指導、交通安全指導、盗難防止強化、携帯電話預かり指導等、指導方法についてさらなる工夫をして改善を図る。</p> <p>⑥薬物乱用防止教室の実施を含め、薬物の恐ろしさについて周知するための指導を徹底する。</p> <p>⑦学校保健計画と学校安全計画に基づき、生徒の健康管理や安全管理を適切に行う。インフルエンザ等の感染症対策については、昨年度の経験を踏まえ、迅速かつ丁寧な対応を心掛ける。</p>	<p>①懲戒の件数が昨年度を上回る事になり、道徳性や倫理観、規範意識や人権尊重意識、自己肯定感の醸成に課題を残した。特に、どの学年においても、1年生での生徒指導についての工夫が必要であると考えられる。</p> <p>②「相談室」の利用機会の増加、「教育相談委員会」の定期的開催、SCSVやSCの方の定期的来校、教職員研修の実施など、教育相談機能を充実させることができ、障がいのある生徒や課題を抱える生徒の支援ができた。(下の(4)参照)</p> <p>③部活動加入率は7割弱であり、全体としては活性化できているが、さらなる加入率の上昇が求められる。行事については、生徒の積極的な参加により、大冠の伝統が継承されている。</p> <p>④メロディーチャイムの効用に加え、放課後に残しての説諭指導等を全学年で行うことによって組織的な指導を行うことができ、遅刻者数は昨年度と比較して約1割減少した。</p> <p>⑤教員の粘り強い指導を継続することができ、一定の成果は上がっているが、自転車通学マナーについては外部から苦情があり、さらなる指導の徹底が求められている。</p> <p>⑥1年で薬物乱用防止教室を実施するなど、例年同様、薬物の恐ろしさについて周知するための指導が徹底できている</p> <p>⑦生徒の健康管理や安全管理を適切に行うことができ、インフルエンザ等の感染症対策についても問題はなかった。</p>	<p>○善悪の区別など、道徳性や倫理観、規範意識や人権尊重意識、自己肯定感を身に付けさせ、豊かな心を育み、温かい人間関係を醸成するため、1年入学時からこれらのことを生徒に浸透させられるよう取組みを工夫する。</p> <p>○人権意識やいじめ防止に関する生徒へのアンケートを充実させる。</p> <p>○平成25年度での計画完成をめざし、平成23年度の志学、キャリア教育、人権教育等の計画・実行・検証を行う。</p> <p>○自転車通学マナーの向上については、PTAとも連携して取組みを工夫する。</p> <p>○洋式トイレの導入を含め、「癒しのゾーン」近くのトイレをリニューアルする。</p> <p>○これを契機に、「物をきれいに大切に使うこと」をはじめとして、美化についての意識を高める。</p> <p>○教育相談機能については、下の(4)に記載する。</p>
(3) 学校運営等	<p>①学習指導要領の改訂に伴う新しい教育課程の構築に向けての検討を行う。</p> <p>②すべての教職員がカウンセリングマインドをもって、生徒の状況を的確に把握することに努めるとともに、家庭との連携を密にして生徒の成長を支援し、昨年度よりも中退者・留年者の数を減少させることをめざす。その際、「相談室」の機能を確立させ、有効に活用するとともに、子ども家庭センターや大阪府教育センター等の関係諸機関とも連携し、心の問題、家庭の問題等に丁寧に対応できるようにする。</p> <p>③普通科総合選択制高等学校が後期に選抜を行う等、平成23年度の入学選抜においてその様相が大きく変わることを踏まえ、首席と総務部との連携をさらに密にして、授業公開・中高連絡会・学校説明会・中学校訪問・ホームページ等を充実させ、学校としての広報活動をより一層組織的かつ有効なものにできるよう工夫する。</p> <p>④進路指導部の業務の継続性が確保できるような体制づくりができるよう検討する。</p> <p>⑤授業評価の導入に伴うシステムづくりや実施運営方法について検討し、授業改善の一助として授業評価を上手く活用する。</p> <p>⑥25周年記念行事の円滑な実施・運営に努める。</p> <p>⑦学校教育自己診断の結果とその分析、学校協議会で得られた提言等により、学校運営の改善に努める。</p> <p>⑧PTA及びPTAのOBとの円滑な連携に努める。</p>	<p>①新学習指導要領の学習会(2回実施)を含め、「新カリキュラム委員会」が精力的に動き、新しい教育課程の枠組みの議論を進めることができた。</p> <p>②カウンセリングマインドをもって生徒の状況把握に努めたが、対応が後手に回った事象が若干あり、また、家庭との連携という点でも幾分課題が残った。教育相談機能の充実、関係諸機関との連携という点では、問題はなかった。中退者・留年者の数の減少については、今後も努力が必要である。</p> <p>③教頭、首席、総務部の連携を密にし、学校説明会を10月以降6回実施した。8月に加え12月にも広報誌を発刊し、中学校訪問・ホームページの内容等を充実させて、学校としての広報活動をより一層充実させることができた。</p> <p>④進路に関する資料等は確実に継承できている。ただ、進路指導部員の入れ替わりの多さという点では課題が残った。</p> <p>⑤「授業評価委員会」を立ち上げ、本校の実態に合う形態を模索しながら議論を進め、アンケートを11月に実施し、各教科の授業改善の取組みにつなげることができた。</p> <p>⑥本校の巨大壁画の作成にも尽力いただいたNPO法人「アーツプロジェクト」による講演会を実施することができた。</p> <p>⑦学校協議会での提言により、授業評価の推進、校内での公開授業の実施等、授業改善に対する教員の意識が高まり、これらの事柄についての次年度への課題も整理できた。また、学校経営計画についても学校協議会で吟味していただいた。</p> <p>⑧PTA及びPTAのOBと円滑な連携を図ることができた。</p>	<p>○3年後や5年後を見据えた学校経営を考え、様々な諸課題について検討するための組織として「学校経営委員会」を設置する。</p> <p>○学校経営の検討に参画する意欲の向上を図るための取組みを行う。</p> <p>○すべての教職員がカウンセリングマインドをもって、生徒の状況を的確に把握することに努めるとともに、家庭との連携を密にして生徒の成長を支援することを徹底する。</p> <p>○学校説明会について、開催する時期と回数を再検討し、生徒の授業での頑張りが発表の様子、PTA役員からのメッセージ等を盛り込むなどして内容をさらに充実させる。</p> <p>○ホームページのさらなる充実を図る。特に、授業の紹介、生徒の発表の様子の紹介を増やす。</p>

(4) 追加項目	<p>●「こころとからだの健康」プロジェクト</p> <p>①テーマ「こころとからだの健康」に基づいた、根本的なコンセプトと具体的な取組内容についての検討をする。</p> <p>②生徒の心と体の状況についての情報を共有するための「教育相談委員会」の開催を定例化する。また、同じ趣旨で、「教科担当者会議」の開催についても検討する。</p> <p>③「教育相談委員会」において、「相談室」の活用方法の検討をし、その有効活用を図る。</p> <p>④生徒理解のための教職員研修（テーマ例：特別支援教育、発達障害等）を企画・実施する。</p> <p>⑤スクールカウンセラー（SC）やスクールカウンセリングスーパーバイザー（SCSV）の方との連携をより一層図る。</p> <p>●高大連携プロジェクト</p> <p>①関西外国語大学については、引き続き「中国通プログラム」等を通じて中国語に関する内容の連携を中心に行うが、本校に在籍する中国籍の生徒の日本語指導の面での協力も仰ぐことができるよう要請する。また、学習合宿の実施といった連携形態についても模索する。</p> <p>②立命館大学については、保健体育科との連携に加えて、学習合宿の実施といった連携形態についても模索する。</p> <p>③関西大学、大阪電気通信大学、大阪大学については、昨年度に引き続き、同じ内容（大学からの出前授業・大学での体験授業・大学生の本校でのインターンシップ）で連携していくが、より一層生徒の学習意欲や進路意識の高揚に資することができるよう、他にも連携できる大学があれば、その開拓に努める。</p>	<p>●「こころとからだの健康」プロジェクト</p> <p>①「②～⑤」の充実を図ることを再確認した。</p> <p>②「教育相談委員会」を毎月1回のペースで開催し、心のケアを必要とする生徒や発達障がいのある生徒等への対応を協議した。また、要配慮生徒の指導のためのケース会議を必要に応じて開催した。</p> <p>③時間帯を決めて「相談室」を定期的に開放した。会議等も含め、「相談室」の利用回数は70回であった。</p> <p>④10月に「精神科とその診療対象」、1月に「性行動と教育相談」というテーマでそれぞれ教職員研修を実施した。</p> <p>⑤SCの方、SCSVの方にそれぞれ11回お越しいただき、様々な事例に対して指導・助言をしていただいた。</p> <p>◎上述のような取組みを行った結果、心身両面において、生徒や保護者のケアがある程度できたと考えている。</p> <p>●高大連携プロジェクト</p> <p>①「中国通プログラム」等による特別推薦で3名が関西外国語大学への進学を決めた。また、関西外国語大学の施設を借りて、3年生の希望者を対象とした学習合宿を実施し、参加した生徒には学習意欲の向上や進路意識の高揚がみられた。</p> <p>②立命館大学の施設を借りて、2・3年の体育科目選択生を対象とした学習合宿を実施し、参加した生徒には学習意欲の向上や進路意識の高揚がみられた。</p> <p>③立命館大学、大阪大学の学生が、インターンシップ生やボランティア生として来校し、学習面での生徒への支援、文化祭での生徒との交流ができた。生徒にとっては、身近で大学生と接することにより、大学や大学生への魅力を感じるきっかけとなった。他に、大阪体育大学とも提携を結ぶことができた。</p>	<p>○教育相談委員会や特別支援委員会の機能をさらに充実させ、障がいのある生徒や課題を抱える生徒の自立を支援できる体制をより一層確立する。</p> <p>○相談室の利用をさらに促進し、SCSVやSCの学校訪問の回数を増やす。</p> <p>○連携の仕方の工夫、連携する大学の拡充等、高大連携の取組みをさらに充実させる。</p> <p>○授業、クラブ、生徒会等において、地域の方々と触れ合う機会を設けるとともに、生徒に「自分たちが本校で学習したり活動したりしたことを地域の方々に役立てることができる（貢献できる）」ことを経験させる。</p> <p>○地域交流の拠点とすることを視野に入れ、既存の交流ホール等、校内施設の活用方法を工夫する。</p>
----------	--	---	--

4 学校教育自己診断における結果と分析 [平成20年7月実施分]

実施対象	教職員 生徒 保護者
教職員	他教員の授業見学の機会が少ないとの指摘が9割弱。 支援学校との交流の機会が少ないという指摘が7割強。 教科を超えた指導内容の話し合いがないという指摘が7割弱。 ○授業の質の向上に関しての研究や研修が不足していると考えられる。
生徒	自分の考えをまとめたり発表したりする機会が少ないとの指摘が7割。 実験・観察・実習の時間が少ないとの指摘が7割弱。 制服に不満を持つ者が7割弱。 分かりやすい授業との指摘が6割。 ○制服改定と授業研究の必要性が考えられる。
保護者	○学校からの情報量の不足に不満が出ていた。

5 学校協議会における提言内容

*実施日	第1回（9月22日）、第2回（2月25日）
*委員構成	北條秀司【座長】（関西外国語大学短期大学部教授） 北山茂治（高槻市立第十中学校長） 池田美保子（高槻市立桜台幼稚園長） 加治屋重則（矢崎化工大阪工場長） 鱈淵高子（茨木市立大池小学校養護教諭、本校10期卒業） 宮脇淳子（本校PTA元役員）
*内容	<p>○第1回協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、もっと生徒を授業に参加させることが大切である。中学校では“講義型から参加型へ”が流れであり、グループを作って生徒どうしで教え合う“参加型授業”を重視している。参加型の授業で教師自身の授業力を高めることが求められている。 ・授業力を高めるためには研究授業が重要である。校内での公開授業週間を設け、相互に教員が授業見学をしてはどうか。 ・先生に対して生徒が意見を言う場がないのは残念である。授業アンケートを実施して、授業改善を望む生徒の声を把握できるようにするのがよい。 ・生徒が授業にまじめに取り組んでいる様子をもっと外部に対してHP等でアピールすることが必要である。 <p>○第2回協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの実施方法やデータの集計方法について、より一層の工夫が必要である。集計結果については、数値を明確に示した方が分かりやすいし説得力がある。また、授業改善の工夫のための教科の取組みについては、具体的にどのように工夫するのかということも明確に示すことがアンケートに回答した生徒に伝えることにつながる。 ・小さな子どもやお年寄り等の異世代の方々と接する経験を通して、自分が学習したことが誰かのために役立っていることを実感させることを重要視した音楽科の取組みはすばらしい。このような取組みを他の教科でも実施できれば、より一層よい教育活動につながるのではないと思う。 ・近隣の中学校と高校とで連携し、経験年数の少ない先生方を中心に研究授業・公開授業の取組みを行う等、授業力向上のための具体的な中高連携を進めていけるよう協力したい。 ・経営計画を実現するためにも、学校評価、授業アンケート、研究授業等により一層取り組んでほしい。